

刹那

J J I S X A / 池

先日、テレビのクイズ番組を見ていたら、「刹那」というのはどのくらいの時間だ？という設問があり、刹那は1/75秒が正解だった、刹那とか瞬間とかいう言葉が具体的にどの位の時間になるなどとは全く知らなかった。

「刹那的」という言葉をWEBで検索すると、…「刹那的」とは「時間的にとても短いこと」「将来を見据えず瞬間だけを充実させて生きること」「一時的な快楽を求めること」の3つの意味を持つ言葉で、最も多い使い方は「刹那的に生きる」で、一瞬だけを充実させ満足する生き方、という意味で使われています。刹那的に生きることは決して悪いことではありません。…と。

以下に、短い時間の単位と時間を列挙します。

1刹那は1/75秒、約0.013秒。

1念は約0.018秒。

1瞬は約0.36秒。

1弾指は約0.864秒。

1瞬とは1回瞬きをする時間だ、1弾指は1回指をはじく時間ということのようだ、刹那の長さについては諸説あるが、指をひとはじきする（弾指）間に65刹那あると言われている他、「大毘婆沙論」では、24時間=30牟呼栗多=900臘縛=54,000恒刹那=6,480,000刹那とし、1刹那の長さを1/75秒に比定しているのだ。

「ブリタニカ国際大百科事典」では、「瞬間」を…眼のまたたき、Blick des Augesに由来する「瞬間」 Augenblickは、すでに中世高地のドイツ語では時間的意味を与えられていたが、のちになって過去と未来の間に存する「今」というきわめて短い時間的規定を有する語として使われるようになった。哲学史上「瞬間」の概念を初めて規定したのはプラトンである。彼は、瞬間 to exaiphnēs (突然) をそれから運動 kinēsis、あるいは静止 stasisへの変化が起るようなものとして、また両者の間に一種奇妙なもの atopon (「場所をもたない」の意) としてあり、時間 chronosのなかには存在しないものであると規定した（『パルメニデス』）。S.キルケゴールは『不安の概念』のなかでプラトンの瞬間の規定に言及しながら、瞬間を一切の過去のなもの、未来的なものをもたぬ現在のものそのもの、永遠と時間が相互に触れ合う二義的なものとして把握した。…と解説しているが、余り良く分からない。

余り良く分からないが、一瞬は、刹那よりも長い時間なのだ、一瞬は、一刹那の約28倍の長さだ。

大昔の賢者が考えたことが簡単に理解できないことに苛立ちを感じず、私と違って、頭脳明晰な皆様は如何でしょうか？

先のクイズ番組に出演していた、現役の東大生、京大生の頭脳というか、知識には、驚き以外何も言えない。

私の高校の同級生で東大に現役で合格、現在も東大英文学部の名誉教授の彼（T・W氏）でも、クイズ番組に出演していた彼等にはとても歯が立たないだろうと思った次第だ、高校2年位までは彼とも仲良しだったが、その後の人生は、雲泥の差がついてしまった。